



<報道発表資料>

2018年（平成30年）3月30日

**2018年度（平成30年度）第1次公募による富士山測候所の研究/活用案件を決定しました**

—引き続き第2次公募および学生公募を行います—

認定NPO法人富士山測候所を活用する会は、2018年度第1次公募の中から学術科学委員会及び活用委員会による厳正な審査を行った結果、研究計画14事業、活用計画6事業、およびトライアル利用3事業をそれぞれ以下のとおり決定しました。

なお、より多くの方々に富士山測候所を有効に活用していただきたく、引き続き4月1日より第2次公募をしますので、この機会に日本一高所の実験ステーションの活用をぜひご検討ください。

●研究公募

ID	研究テーマ	代表者名	分野	区分
R01	自由対流圏における水銀挙動の究明	野田 和俊 (産業技術総合研究所)	大気化学	継続
R02	富士山頂における長期二酸化炭素濃度観測	向井 人史 (国立環境研究所)	大気化学	継続
R03	日中韓同時観測による長距離輸送されたPM2.5/PM1の化学組成解明	米持 真一 (埼玉県環境科学国際センター)	大気化学	継続
R04	富士山体を利用したエアロゾルの気候影響の研究	三浦 和彦 (東京理科大学)	大気化学	継続
R05	山岳域を利用した偏光OPC観測ネットワークによる越境輸送大気エアロゾル観測	小林 拓 (山梨大学)	大気化学	継続
R06	富士山頂におけるナノ粒子の粒径分布の測定	東 秀憲 (金沢大学)	大気化学	継続
R07	富士山頂における窒素酸化物の観測	和田龍一 (帝京科学大学)	大気化学	継続
R08	富士山体を利用した自由対流圏高度におけるエアロゾル-雲-降水相互作用の観測	大河内博 (早稲田大学)	大気化学	継続
R09	富士山頂における一酸化炭素,オゾン,二酸化硫黄の夏季の長期測定	加藤 俊吾 (首都大学東京)	大気化学	継続
R10	発達した積乱雲による対流圏から成層圏への物質輸送の研究	岩崎 杉紀 (防衛大学校)	気象	継続
R11	富士山山頂における雷研究	鴨川 仁 (東京学芸大学)	雷	継続
R12	高所滞在における血行動態の変化および脳虚血に関する検討	金澤英紀 (自治医科大学放射線科)	高所医学	継続
R13	高所滞在における脳実質変化のMRIでの比較検討	金澤英紀 (自治医科大学放射線科)	高所医学	継続
R14	登山行動中の血行動態の解明—マルチセンサー自由行動下24時間血圧計を用いた計測—	小森孝洋 (自治医科大学内科学講座循環器内科学部門)	高所医学	継続

●活用公募

U01	富士山旧測候所を利用した通信の可能性について	杉崎 広正 (KDDI)	通信	継続
U02	富士山頂における携帯電話の高速通信検証	山本貴之 (ドコモECS東海)	通信	継続
U03	「理科準備室へようこそ」～ 富士山頂での教材開発 VII ～	古田 豊 (NPO法人ガリオ工房)	教育	継続
U04	3000メートルを超える高所での噴火監視及び防災放送システムの構築	後藤喜男 (NHK静岡局)	防災報道	継続
U05	ネパール高所非電化農村地帯向け、風力主体ハイブリッド発電機の実証実験 (HAWA-group)	桐原 悦雄 (産業技術大学院大学)	発電	継続
U06	インドヒマラヤ登山向け高所適応研究	三ツ元 三郎 (横浜山岳会)	高所訓練	継続

●トライアル利用公募

T01	高所滞在時の尿蛋白量とアンギオテンシン変換酵素遺伝子型の関連	上小牧憲寛 (済生会宇都宮病院救急科)	高所医学	新規
T02	酸素運搬量からみた高所順応・高山病発症と酸素吸入療法の効果について	清水健太郎 (大阪大学医学部附属病院)	高所医学	新規
T03	宇宙線ミュオンによる富士山地下水の分布と挙動の観測	後藤 聡 (山梨大学工学域土木環境工学科)	火山噴火 予知	新規